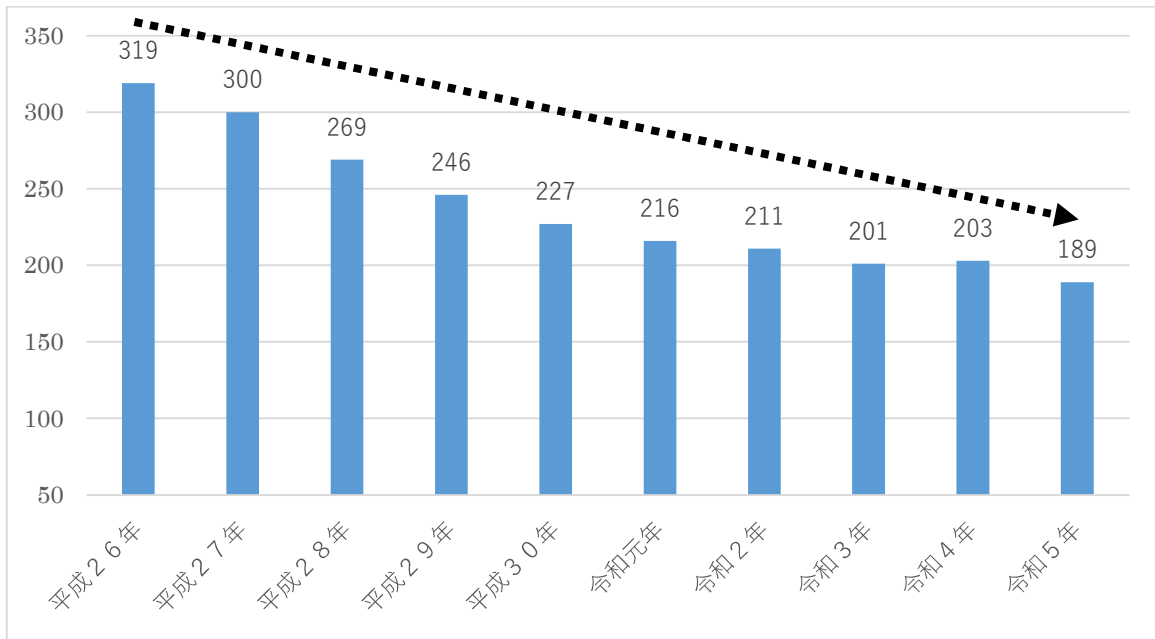


「令和5年上半期火災発生状況」(速報値)

札幌市内の令和5年上半期火災件数は **189件**で、平成26年からの10年間で見ると、減少傾向で、昨年と比較して **14件減少**となりました。

【図1 火災件数の推移】



●火災種別・死傷者について

火災種別ごとの件数を昨年と比較すると、建物火災が144件で3件増加、林野火災は0件で1件減少、車両火災は17件で10件減少、その他火災は28件で6件減少となりました。

また、死傷者は、死者が5名で7名減少し、負傷者は28名で10名減少しています。

【表1 火災種別・死傷者に係る前年との比較】

| | 火災種別 | | | | | | | | | | | 死者 | 負傷者 |
|------|------|----|-----|----|-----|----|----|----|-----|----|----|----|-----|
| | 総数 | 爆発 | 建物 | | | | 林野 | 車両 | その他 | 野火 | | | |
| | | | 全焼 | 半焼 | 部分焼 | ぼや | | | | | | | |
| 令和5年 | 189 | 0 | 144 | 10 | 2 | 39 | 93 | 0 | 17 | 28 | 10 | 5 | 28 |
| 令和4年 | 203 | 0 | 141 | 10 | 10 | 37 | 84 | 1 | 27 | 34 | 4 | 12 | 38 |
| 前年増減 | ▲14 | 0 | 3 | 0 | ▲8 | 2 | 9 | ▲1 | ▲10 | ▲6 | 6 | ▲7 | ▲10 |

※建物火災144件のうち、住宅火災は95件

●出火原因について

出火原因別の件数を昨年と比較すると、こんろ火災が43件で10件増加し、電気関係に代わり最も多く発生しています。次いで、電気関係が34件で8件減少し、放火が24件で11件減少、ストーブが13件で5件増加、たばこが12件で20件減少しています。

【表2 主な出火原因別に係る前年との比較】

| 出火原因 | こんろ | 電気関係 | 放火 | ストーブ | たばこ |
|------|-----|------|-----|------|-----|
| 令和5年 | 43 | 34 | 24 | 13 | 12 |
| 令和4年 | 33 | 42 | 35 | 8 | 32 |
| 前年増減 | 10 | ▲8 | ▲11 | 5 | ▲20 |

《ポイント① こんろ火災が出火原因1位に》

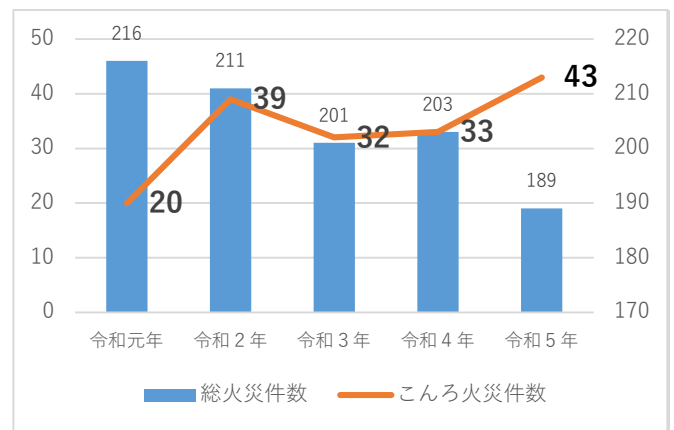
こんろ火災が43件発生し、昨年と比べ10件増加となっています。図2のとおり、令和元年からの5年間を比較すると、令和2年の39件を超え、最も多く発生しています。

こんろ火災の発生経過を見ると、図3のとおり「天ぷら油過熱発火」が18件で全体の約42%を占め、次いで「可燃物落下・接触・接炎」が11件発生しています。

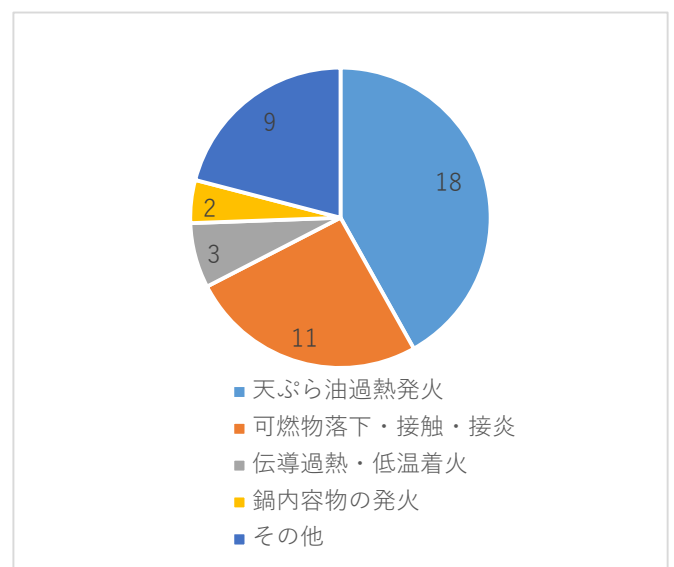
住宅においては、前年比で5件増加の28件となっており、うち、天ぷら油の過熱発火は14件で、過熱防止装置がついていないこんろを使用し、火災となったものが半数以上の8件となっています。過熱防止装置有りでも火災となっているものは、6件中4件がIHこんろで、油量不足や鍋の位置が不適當などにより、過熱防止装置が正常に作動せず、火災に至ったと考えられます。

また、今年は飲食店からの出火が目立ちます。令和元年から昨年までの上半期では飲食店でのこんろ火災は毎年5件前後でしたが、今年は13件発生していることから注意が必要です。

【図2 総火災件数とこんろ火災件数】



【図3 こんろ火災の発生経過】



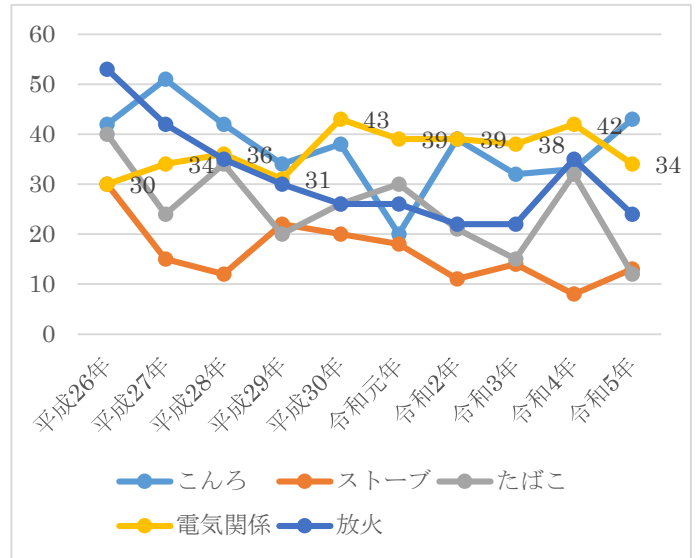
《ポイント② 住宅における電気火災は増加》

図4のとおり、平成30年から火災原因の1位が続いていた電気関係が原因となった火災は、昨年から8件減少して34件となりました。

しかし、その一方で住宅における電気火災は、図5のとおり平成26年からの10年間で最多の20件となっており、電気火災の総件数に対する割合は、約59%と非常に高くなっています。

電気火災の発生経過に主だった傾向は見られませんが、電気機器の差込プラグ部分からの出火が数件認められ、これは差込プラグの接触不良や、同部分に水分やほこりが介在することが要因となるトラッキングが出火原因となっています。

【図4 10年間の主な出火原因】



【図5 電気火災件数の推移】

